

図書館情報メディア研究科博士前期課程

学位論文梗概集

平成19年度

筑波大学

はじめに

平成19年度筑波大学大学院図書館情報メディア研究科図書館情報メディア専攻博士前期課程修了者の修士学位論文梗概集を刊行いたします。本梗概集には本研究科の多様で先端的な研究の成果が集結しております。ここに学生の皆様の修士論文作成までの努力を讃えるとともに、指導教員、副指導教員や査読者を始めとする論文に関わられた教員各位に感謝申し上げます。

図書館情報メディア研究科は、「情報メディアによる社会の知識共有とその仕組みに係る研究を進展させ、新しい時代に向かって社会をリードする人材を養成すること」を使命としてかかげており、その達成のために「社会における知識・情報の共有や、その仕組みとしての図書館や情報ネットワーク」を対象にした、人文学、社会科学、理工学等の多様なアプローチからの総合的・複合的な教育・研究を行っております。そのような多面性を実現するために、情報メディアマネジメント分野、情報メディア社会分野、情報メディアシステム分野、情報メディア開発分野の四つの教育研究領域を設置し、また修士の学位も図書館情報学、情報学、学術をそろえております。ちなみに本年度における本研究科の修士学位取得者29名の内訳は、教育研究領域別では情報メディアマネジメント分野が11名、情報メディア社会分野が5名、情報メディアシステム分野が4名、情報メディア開発分野が9名、学位の種類別では図書館情報学が15名、情報学が12名、学術が2名でした。

博士前期課程の修了者は、公的機関や企業等で図書館情報メディアに係る専門家として実務に携わるもの、将来この領域の先駆的な研究者になるべく博士後期課程に進学するものなどさまざまです。どのような職につかれようとも、修了生各位が、本研究科で学んだ事や修士論文を完成させるまでの研究生活の中で得た知見を活かし、知識情報社会のフロンティアとして活躍されることを期待します。

さて本研究科でこのような修士学位論文梗概集の刊行を始めたのは昨年度からです。修士論文の公開を求める声が強かったことや、折角の成果を多くの人に知っていただく事が重要という判断によるものでした。2ページという分量は研究領域によっては不十分ではあるかも知れませんが、学会等の講演予稿集程度の分量であり、研究内容の骨格を知るには十分と考えます。修了生や本研究科の教員・学生はもとより、関連する研究に興味を持たれている多方面の方々に参照していただければ幸いです。

2008年3月

図書館情報メディア研究科長 中山伸一

目 次

《 修士（図書館情報学） 》

吉 田 敏 也	学習トピックの変化に対応した非定型学習環境の構築 ……………	1
安 達 匠	図書館・博物館連携 —人文系資料を対象とした大学図書館・大学博物館の連携を中心に— ……………	3
上 田 直 人	大学図書館の使命とミッションステートメント ……………	5
小笠原 理 穂	新聞教育における読解力の育成 ～N I Eの実践を事例として～ ……………	7
落 合 奈緒美	大学図書館ポータルでの情報提供に関する実証的研究 ……………	9
柴 田 大 輔	理論物理学と実験物理学の引用パターンの比較 ……………	13
堰 向 志 穂	日本における医学図書館の歴史 —戦前の大学医学部・医科大学に附属する図書館を中心に— ……	15
野 口 康 人	空間を考慮した複合現実感による分散コミュニケーションシステムの開発 ……………	17
橋 本 祐 希	社会教育の学習方法における印刷メディアの利用 ……………	19
日 向 智 子	現在の日本の大学における情報発信のあり方 —機関リポジトリを中心に— ……………	21
不 野 寛 一	教科「情報」と大学における情報教育の体系化に関する研究 ……	23
細 野 美 里	野田市立興風図書館所蔵和古書についての研究 ……………	25
松 田 典 之	公共図書館における運営合理化 —自治体の直接関与に注目して— ……………	27
茂 呂 真 弓	音楽とコミュニケーション —軽音楽サークルにおけるオリジナル音楽資源の扱いに焦点を当てて— ……………	29

《 修士（情報学） 》

阿 部 裕 介	コミュニケーション相手に着目した異種コミュニケーションツール統合インタフェース ……………	31
伊 吹 和 也	フィルタ共有によるP2Pネットワーク上の有害コンテンツ拡散抑制方式 ……………	33

川 戸 祐 介	集合知再構成手法を用いたWeb情報資源の統合利用に関する研究	39
澤 菜津美	明示的な制約記述によるWebコンテンツ一貫性管理支援	41
瓶 子 和 幸	集団属性を考慮した公共空間向け適応的広告システムの研究	45
舞 田 純 一	自己拡張可能な構文解析器生成系	47
松 藤 果 穂	画像中文字の認識に関する研究	49
Jan Askhoj	A Framework for Bridging Content and Records Management Systems – A Lightweight System for Automated Records Submission and Metadata Exchange	51
佐々木 一 洋	口周りの特徴を用いた笑い顔表情認識	53
《 修士（学術） 》		
宮 下 佳 子	書体の太さと視距離の関係における文字の見やすさ評価 – 年齢に合った最適文字サイズにおいて –	55
松 浦 匡	Hands-On展示におけるインストラクターの役割 – 科学技術館 FOREST を題材に –	57